

① 米連邦公開市場委員会(FOMC)

- ⇒ FOMCの結果公表を受けて、米連邦準備理事会(FRB)による早期の引き締め観測(=金融緩和を終わらせる)が後退し、全般にドル売りが優勢
- ⇒ 一時 109.32 円までありましたが、発言後 108.74 円まで円高ドル安に
- ⇒ 米 10 年国債利回りも一時 1.69%まであって 1.65%前後まで低下しました
- ⇒ 以下はパウエル議長の主な発言です
- ⇒ 「今後も必要な限りサポートを続ける」
- ⇒ 「金融政策は回復が完了するまで著しい支援を提供」
- ⇒ 「一時的にインフレ率が 2%を超えたとしても利上げの要件を満たさない」
- ⇒ 「テーパリング(量的金融緩和の縮小=出口戦略)議論を始める時ではない」
- ⇒ 「現行の金融政策スタンスは適切」
  
- ⇒ 今回の会合では、正副議長や地区連銀総裁ら 18 人がそれぞれ中期的な政策見通しを示しました(ドットチャートと言います)
- ⇒ 21 年、22 年、23 年ともゼロ金利を維持する方針が中央値となり、FOMC の大勢は「ゼロ金利の解除は 24 年以降」となっています
- ⇒ ただ、23 年に利上げを見込む参加者は 7 人おり、前回 20 年 12 月時点の 5 人から増えています
- ⇒ また 22 年中の利上げを予想するメンバーも 4 人いました
- ⇒ 株価に配慮してパウエル議長は金融緩和を継続するスタンスを堅持していますが、米 10 年国債利回りはマーケットに委ねられていますので、18 人のドットチャートからも、今後 2%を目指して上昇する可能性が高いと思います
- ⇒ 一方で明日 19 日昼に発表される日銀のスタンスは基本的に金融緩和継続でしょう
- ⇒ 米ドルは 110 円の壁を突破しようとする可能性がまだ残っていますが、108.33 円を下回ると円高に戻ると思います
- ⇒ ①経常赤字 ②財政赤字による国債の大量発行 ③インフレ ④実質金利低下 ⑤格下げ懸念 等もあり基本的には「ドル安」の流れは変わりません
- ⇒ ユーロ・ポンド・豪ドルが対米ドル・対円で上昇する流れも不変だと思います
- ⇒ GOLD は 1743ドル前後に反発していますが、米長期金利上昇もあり、揉み合いが少し続くと思います
- ⇒ 米株価は金融緩和継続・15 万円/人の補助金支給等があり更に過熱することが予想されますが、そろそろ材料出尽くしとなり、そのしっぺ返しも大きいのではないのでしょうか
- ⇒ 20 日(土)の動画では、明日の日銀のスタンスも踏まえて詳しく解説させていただく予定です

【米 10 年国債利回り:1 週間】



【ドルインデックス:1 週間】



### 【米ドル／円:4時間足】



### 【ドル建て金価格:1週間】



### 【ユーロ／円:8時間足】



### 【ポンド／円:8時間足】



【豪ドル／円:8時間足】

